

TAISEI

CORPORATE REPORT 2014



For a Lively World

目次

大成建設グループを知る	
02	会社概要
03	財務・非財務情報
05	トップメッセージ
07	特集 大成建設140年の歩み
わたしたちの事業と使命	
13	持続可能な社会に向けて
15	主な実績紹介 土木事業
19	建築事業
23	開発事業
新しい価値創造	
27	大成建設の技術とサービス
29	グループ会社の取り組み
CSRマネジメント	
31	大成建設グループのCSR
33	CSRハイライト

編集方針

グループ理念と大成スピリットに基づく価値創造に向けた大成建設グループの取り組みをご理解いただくために、財務情報とESG（環境・社会・ガバナンス）情報をまとめたコーポレートレポート（統合報告書）をお届けします。

対象組織 大成建設および主要グループ会社 対象期間 2013年度（2013年4月1日～2014年3月31日） （一部当該年度以外の内容も掲載しております） 参考ガイドライン ▶環境省「環境報告ガイドライン（2012年版）」 ▶GRI「サステナビリティレポートガイドライン第3.1版」 ▶ISO26000 （組織の社会的責任に関する国際ガイダンス） ▶国際統合報告評議会（IIRC）「統合報告フレームワーク」	本報告書の第三者の意見 ▶「第三者保証報告書」EY 新日本サステナビリティ(株)による環境情報に関する保証 ▶「第三者意見」早稲田大学 商学大学院商学部教授 経営学博士 谷本寛治氏による報告書全体に対する意見 発行 2014年7月31日
--	--

コミュニケーションツールの構成

本レポートは、ステークホルダーの皆様へ、140年にわたる当社の歴史、大成建設グループのグループ理念やグループ行動指針にそった企業活動や財務報告、経営課題等、企業価値創造の全体像をご理解いただくことを目的として発行しております。
 レポートは、本編と別冊（DATA BOOK）で構成されており、本編には、主に価値創造に向けた当社の技術や実績を紹介し、別冊には財務情報、環境、社会、ガバナンス等CSRマネジメントに関する情報を掲載しております。なお、紙面に掲載していない詳細情報については、大成建設Webサイトに掲載しております。



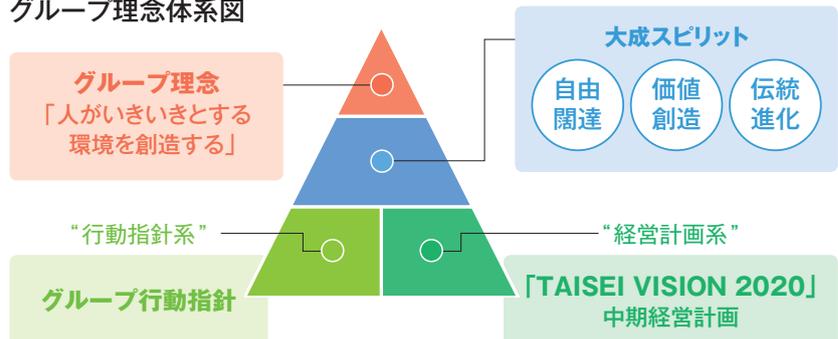
- 世界の代表的なSRIインデックスへ組み込まれています。



- CDPが定めるCDLI (Climate Disclosure Leadership Index) に選定されています。



グループ理念体系図



※ 各ページの内容とグループ理念体系図との関連性をアイコンで示しています。

会社概要 (2014年3月31日現在)

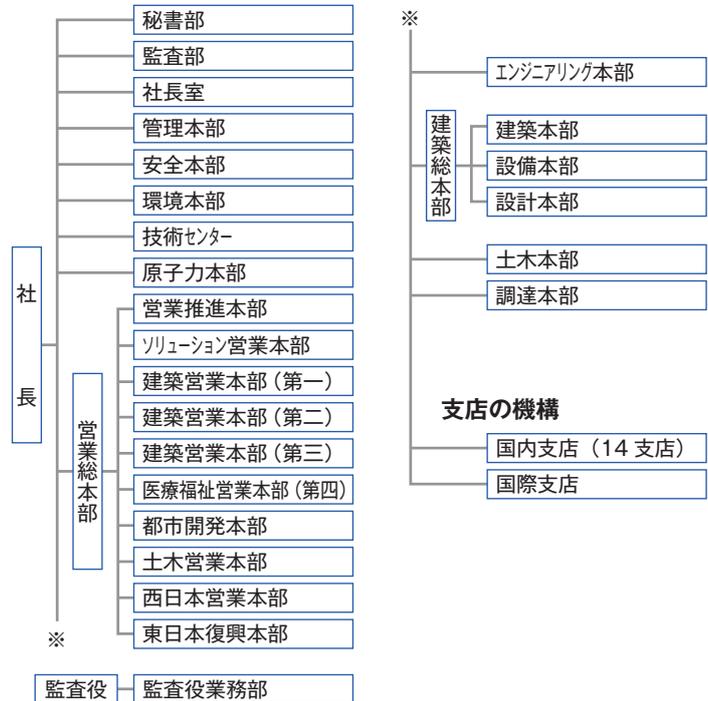
会社概要

大成建設

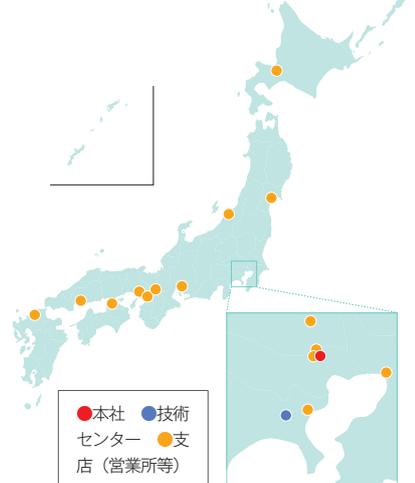
商号	大成建設株式会社 (英文名:TAISEI CORPORATION)
設立	1917(大正6)年12月28日
資本金	1,124億円
本店	東京都新宿区西新宿一丁目25番1号 新宿センタービル
代表者	代表取締役社長 山内 隆司
主な事業内容	土木事業、建築事業、開発事業 他
従業員数	7,951名

標準機構図

本社の機構



国内ネットワーク



海外ネットワーク



[国内] 本社・支店

- 本社 ● 技術センター ● 東京支店 ● 関西支店 ● 名古屋支店 ● 九州支店
- 札幌支店 ● 東北支店 ● 中国支店 ● 横浜支店 ● 北信越支店 ● 四国支店
- 千葉支店 ● 関東支店 ● 神戸支店 ● 京都支店 ● 国際支店

[海外] 営業所・連絡所・海外現地法人

- 台北営業所 ● 中東営業所(ドーハ) ● アメリカ営業所(カリフォルニア)
- クアラルンプール営業所 ● ジャカルタ営業所 ● インド営業所
- パキスタン連絡所(イスラマバード) ● ベトナム連絡所(ハノイ/ホーチミン)
- ミャンマー連絡所 ● スリランカ連絡所(コロンボ)
- 北アフリカ営業所(エジプト) ● イスタンブール連絡所
- PP大成インドネシア建設(インドネシア) ● 大成タイランド(タイ)
- タスプラン(フィリピン) ● ピナタ・インターナショナル(ベトナム)
- 中建一大成建築有限責任公司(中国) ● 大成フィリピン建設(フィリピン)
- インドタイセイ インダ デベロップメント(インドネシア)

主なグループ会社

建設関連事業

大成ロテック(株)、大成ユーレック(株)、大成設備(株)、大成建設ハウジング(株)、成和リニューアルワークス(株)

不動産・開発事業

大成有楽不動産(株)、大成有楽不動産販売(株)、シンボルタワー開発(株)

その他の事業

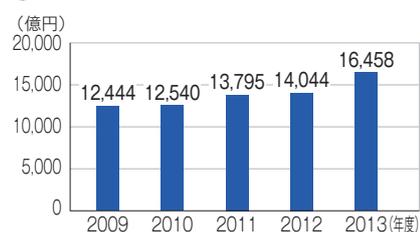
北軽井沢開発(株)、(株)ホテルプリシード郡山 他



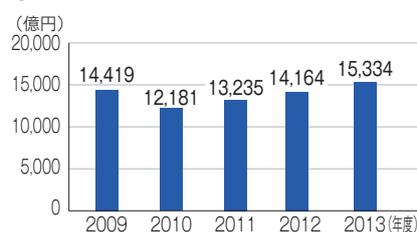
連結財務ハイライト

		2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
① 受注高	(百万円)	1,244,439	1,254,094	1,379,572	1,404,406	1,645,895
② 売上高	(百万円)	1,441,975	1,218,118	1,323,503	1,416,495	1,533,473
③ 営業利益	(百万円)	35,627	36,294	36,485	35,606	53,773
④ 経常利益	(百万円)	27,739	24,043	30,242	35,063	56,756
当期純利益	(百万円)	21,222	10,883	1,181	20,050	32,089
包括利益	(百万円)	—	△1,165	7,661	56,500	46,612
純資産額	(百万円)	297,179	290,598	292,601	343,300	384,166
総資産額	(百万円)	1,501,290	1,395,493	1,494,695	1,543,094	1,599,065
1株当たり純資産額	(円)	262.15	253.94	255.60	299.84	335.42
1株当たり当期純利益	(円)	19.74	9.58	1.04	17.60	28.17
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	(円)	19.24	9.56	—	—	—
自己資本比率	(%)	19.0	20.7	19.5	22.1	23.9
自己資本利益率	(%)	7.8	3.8	0.4	6.3	8.9
株価収益率	(倍)	10.4	21.4	208.35	14.72	16.36
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	16,002	118,894	105,100	73,081	138,749
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	40,871	△3,902	△8,095	△4,703	16,028
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△46,302	△64,750	△58,821	△46,551	△68,826
現金及び現金同等物の期末残高	(百万円)	155,929	203,674	241,163	265,772	354,372
⑤ 有利子負債	(百万円)	530,746	472,033	419,248	379,072	316,493
⑥ D/Eレシオ	(倍)	1.7	1.5	1.3	1.0	0.8

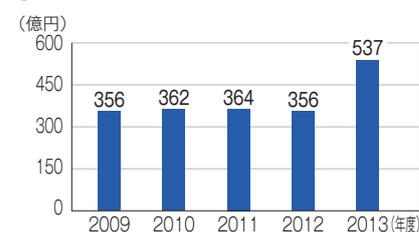
① 受注高



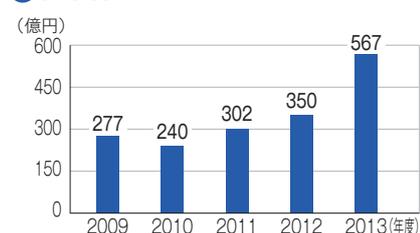
② 売上高



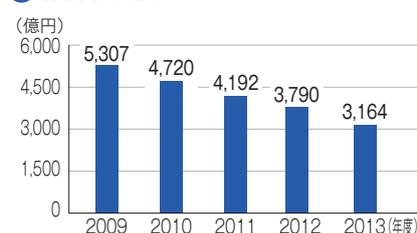
③ 営業利益



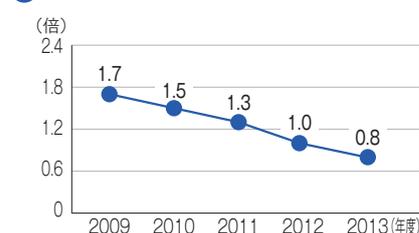
④ 経常利益



⑤ 有利子負債



⑥ D/Eレシオ

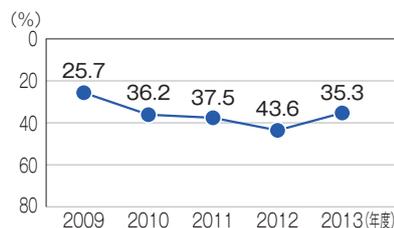




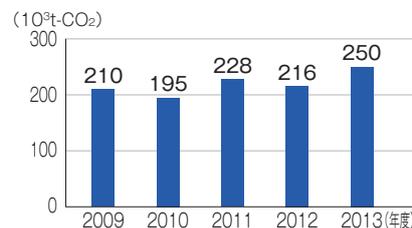
大成建設と大成建設グループの非財務ハイライト

ISO26000と重要な課題・目標	主な取り組み項目	主なKPI	2011年度	2012年度	2013年度	
環境 ●地球温暖化への対応 ●資源の有効利用 ●生物多様性の保全と環境貢献活動 ●環境リスクへの対応 ●環境技術研究・開発と提案力の向上 ●総合的な環境活動	●低炭素社会の実現への貢献 ●省エネルギーの推進 ●3R活動の推進 ●グリーン調達の推進 ●建設廃棄物の適正管理 ●環境配慮技術の提供 ●総合的な環境活動	7 建物運用段階のCO ₂ 予測排出量削減率 (%)	38	44	35	環境(E)
		8 建設廃棄物リサイクル率 (%)	95	96	96	
		9 特許取得件数 (件)	193	224	272	
		10 技術開発・適用PJのメディア発表件数 (件)	66	75	84	
		11 度数率 (件)	4	2	3	
		12 度数率 (件)	0.58	0.81	0.84	
		13 度数率 (件)	—	0.6	0.8	
消費者課題 ●品質の確保とお客様満足度の向上 ●イノベーションマネジメント	●品質管理の基準・手順の周知と徹底 ●社会的課題の解決に向けた技術開発・提供	お客様満足度調査(土木/建築) (%)	100/80	100/60	100/65	ガバナンス(G)
		お客様満足度調査*3 (%)	—	97	95	
コミュニティ参画・開発 ●地域社会への貢献	●社会貢献活動の推進 ●社員ボランティアの拡大	環境社会貢献活動件数 (件)	779	1,048	1,076	社会(S)
		社員ボランティア参加人数 (名)	258	247	176	
人権・労働慣行 ●人権の尊重 ●ダイバーシティマネジメント ●働きやすい職場づくり ●社員のキャリア形成の支援	●人権啓発活動 ●ダイバーシティ(多様性)の推進 ●ワーク・ライフ・バランスの支援 ●人材育成の推進	人権研修受講率 (%)	100	100	100	社会(S)
		女性リーダー育成研修受講者数 (名)	26	26	47	
		障がい者雇用率 (%)	1.88	1.95	2.05	
		再雇用者数 (名)	676	582	643	
		育児休業取得者数(男/女) (名)	2/27	1/37	4/31	
		ジョブリターン登録者数 (名)	48	49	51	
		有給休暇取得率 (%)	33	34	29	
		一人当たり研修時間 (hr.)	40	42	42	
		海外作業所等研修生数 (名)	26	16	12	
		海外研究機関等研修生数 (名)	17	10	11	
労働慣行 ●安全衛生水準の向上	●TAISEI OHSMSで安全衛生水準の向上 ●労働安全衛生管理の徹底	死亡災害件数 (件)	4	2	3	ガバナンス(G)
		度数率 (件)	0.58	0.81	0.84	
組織統治 ●コーポレート・ガバナンスと内部統制 ●リスクマネジメント ●ステークホルダーエンゲージメント	●グループ理念体系の浸透・定着 ●BCP(事業継続計画)への取り組み ●ステークホルダーとの対話	理念体系eラーニングの実施率 (%)	91	98	91	ガバナンス(G)
		大規模災害対策訓練参加率 (%)	100	100	100	
		大規模災害対策訓練参加率*6 (%)	—	100	100	
		ダイアログ等の開催数 (件)	5	5	7	
公正な事業慣行 ●コンプライアンスの推進 ●サプライチェーンマネジメント ●知的財産の保全と管理・活用 ●情報セキュリティ対策	●コンプライアンス意識の向上 ●CSR調達の推進 ●知的財産戦略の実践 ●情報漏えい防止対策 ●情報セキュリティ意識の向上	コンプライアンス研修受講率 (%)	100	100	100	ガバナンス(G)
		コンプライアンス研修受講率*6 (%)	100	100	100	
		「CSR調達」モニタリング実施会社数 (件)	—	—	160	
		知的財産権に関する研修数 (件)	31	36	40	
		重大な情報セキュリティ事故件数 (件)	0	0	1	

※1 大成有楽不動産(株) ※2 大成ユーレック(株) ※3 大成建設ハウジング(株) ※4 大成ロテック(株) ※5 成和リニューアルワークス(株) ※6 大成設備(株)

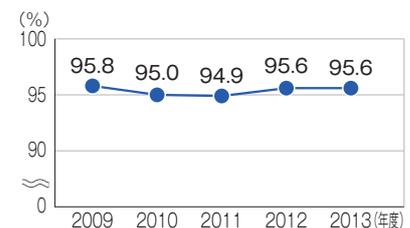
7 建物運用段階のCO₂予測排出量削減率

※単体
 ※当社設計の建築物件における、延床面積300㎡以上の予測削減率。

CO₂排出量

※単体
 ※事業活動が環境におよぼす影響(DATA BOOK P15 マテリアルフロー OUTPUT)データより記載。

8 建設廃棄物リサイクル率



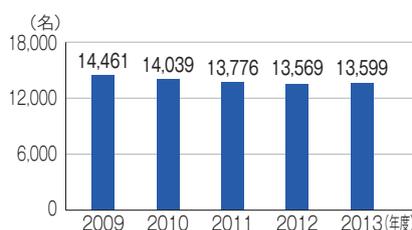
※単体
 ※汚泥および当社由来分以外を除く建設廃棄物が対象。

9 10 特許取得件数と技術開発・適用PJのメディア発表件数



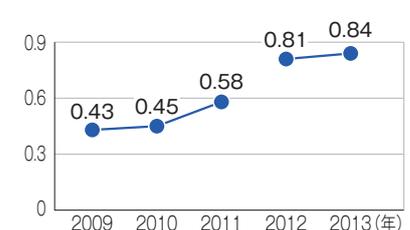
※単体
 ※2009年度2010年度は、技術センターが対象。2011年度からは全社が対象。

従業員数



※連結

11 度数率



※単体
 ※2012年からは休業日数に関わらず「すべての休業災害」(事業主災害等を含む)を対象にして度数率目標を設定。
 ※2009年から2011年までは、休業4日以上の災害が対象。

大成建設は、 創業140周年を迎えました



大成建設株式会社 代表取締役社長

山内隆司

受け継がれる、挑戦の歴史

大成建設グループは、2013年10月をもって創業140周年を迎えました。これもひとえに永きにわたる皆様のご支援、ご愛顧によるものと、心より感謝いたします。

1873（明治6）年、創業者、大倉喜八郎が、当社グループの前身である大倉組商會を設立して以来、その道程はたゆまぬ努力と挑戦の歴史でした。1927（昭和2）年、東京・上野～浅草間に、日本人技術者の力だけで地下鉄道を建設。1964（昭和39）年には、厳寒の富士山頂において気象レーダー基地の建設に携わるなど、来るべき社会を見据えて、困難な事業にも果敢に立ち向かってきました。

進取の精神を持って挑み続けたフロンティア・スピリットは、140年の時を超えて今も受け継がれ、2013年には、「ボスポラス海峡横断鉄道トンネル」を開通させました。技術的難易度の高さから、世界の名だたる建設会社が受注をためらう中、トルコの建設会社とともにプロジェクトを担い、9年の歳月をかけて完成に至りました。イスタンブール初の地下鉄道の開通によって、慢性的な渋滞が徐々に解消され、当地の環境改善に大きく貢献しています。

中期経営計画の推進状況

2010年、当社グループが目指す姿とそのための「施策」を示した長期ビジョンとしてTAISEI VISION 2020を策定しました。それをもとに、2012年度を起点とする、中期経営計画（2012-2014）を推進しています。本計画では、「建設事業 本業の強化」「社会基盤整備・震災復興への貢献」「海外事業 収益構造の確立」「高付加価値分野への取り組み強化・事業領域拡大」「強固な事業基盤の整備」の5つの経営課題を掲げ、社会のニーズに応える技術開発やプロジェクトの推進を通じて、建設業の社

会的責任を遂行するとともに、高い付加価値を生み出す新たな事業構造の確立に向けてグループ一丸となって取り組んでおります。

中期経営計画2年目となる2013年度は、除染事業・災害廃棄物処理事業・高台移転事業などの震災復興への貢献や、懸案であった海外事業の収益回復に大きな成果がありました。

その結果、前年度比で増収・増益となったことに加え、有利子負債の削減も順調に進んでおります。

中期経営計画最終年度となる本年度は、2020年東京オリンピック・パラリンピックを見据えたインフラ投資や景気回復期待を背景にした民間設備投資などの追い風が吹く一方、建設技能労働者不足や建設物価の高騰が顕在化しており、決して楽観できる経営環境ではありません。

引き続き、経営課題への取り組みを継続・強化し、中期経営計画の目標達成に向けてまい進する所存です。

企業価値向上を目指して

当社グループは、「人がいきいきとする環境を創造する」というグループ理念の下、その実践を通じて社会の持続的発展に貢献することを使命と捉え、ESG（環境・社会・ガバナンス）の視点で社会的課題を明らかにし、真摯に取り組むことが、企業価値創造の源泉となると考えます。

まず、環境の取り組みとしては、2050年に向けた長期環境経営目標TAISEI Green Target 2050を作成しました。その達成を目指して、二酸化炭素の排出量抑制、資源の有効利用、生物多様性の保全へ具体的な目標を掲げ

て推進しています。

こうした社会的ニーズに対応した研究開発をスピーディに進めることを目的に、2012年度より5カ年計画で技術センターの施設拡充計画を進めております。2014年度には、ゼロ・エネルギー・ビルを目標とした実証棟（ZEB棟）を開設しました。

一方、近い将来、巨大地震の発生が想定される中で、防災性能に優れた社会基盤の再構築を急がなければなりません。当社グループでは、予期せぬ災害から人の命を守り、長期にわたり建物・構造物の安全性や耐久性を確保する技術の開発を進めています。

また、建設技能労働者不足の問題に対しては、（一社）日本建設業連合会が推進する方針を基に、パートナー企業（協力会社）との連携を一層強化し、技能労働者の人材確保と育成に取り組んでまいります。

「信頼される企業グループ」へ

創業者、大倉喜八郎は、人や企業が成長していく上で最も大切なこととして「自助」「努力」「誠意」の3つを挙げ、常に社会に対する責任と倫理観、そして向上心を持って活動することの必要性を説きました。社会のしくみは大きく変わりましたが、今日、企業が社会の一員として、社会的公正さを保ち、さまざまな課題の解決に向き合うことの重要性はますます大きくなっています。これからも事業活動を通じて、ステークホルダーの皆様から信頼され、社会から必要とされる企業グループをつくりあげてまいります。

中期経営計画(2012-2014)基本方針・経営課題

基本方針	
1. 建設業の社会的責任の遂行	
2. 高付加価値化に向けた事業構造の確立	
経営課題	
① 建設事業 本業の強化	
② 社会基盤整備・震災復興への貢献	
③ 海外事業 収益構造の確立	
④ 高付加価値分野への取り組み強化・事業領域拡大	
⑤ 強固な事業基盤の整備	

中期経営計画(2012-2014)連結の進捗状況

	実績		目標 [*]
	2012年度 (第一年度)	2013年度 (第二年度)	2014年度 (最終年度)
営業利益 (億円)	356	537	470
有利子負債 (億円)	3,790	3,164	3,000 未済
D/Eレシオ (倍)	1.0	0.8	1.0

※ ただし2014年5月の決算発表で有利子負債およびD/Eレシオの予想を修正しました。

特集

大成建設 140年



1873~1945

日本の近代化を支えた建設事業

- 1837 (天保 8)年 大倉喜八郎、越後国新発田(現・新潟県)に生まれる
- 1872 (明治 5)年 新橋停車場
- 1873 (明治 6)年 大倉喜八郎が銀座に大倉組商會を設立[創業]
銀座煉瓦街[復興]
- 1882 (明治 15)年 銀座大倉組商會前にアーク灯点火
- 1883 (明治 16)年 鹿鳴館
- 1887 (明治 20)年 有限責任日本土木會社設立[初の建設業法人]
- 1890 (明治 23)年 琵琶湖疏水
- 1911 (明治 44)年 (株)大倉組土木部発足
- 1912 (大正 元)年 宇治川電氣宇治川発電所
- 1916 (大正 5)年 東京市街高架線東京駅~万世橋~新常盤橋間
- 1917 (大正 6)年 (株)大倉土木組設立[初の建設業株式會社]
- 1923 (大正 12)年 帝國ホテル新館
- 1924 (大正 13)年 大倉土木(株)に社名変更
- 1927 (昭和 2)年 東京地下鉄道上野~浅草間[東洋初の地下鉄]
- 1931 (昭和 6)年 大倉シャンツェ
- 1936 (昭和 11)年 川奈ホテル 富士コース

1946~1969

復興から新たな成長へ

- 1946 (昭和 21)年 大成建設(株)に社名変更
- 1947 (昭和 22)年 社員投票により社長と役員を選出
- 1953 (昭和 28)年 有楽土地(株)設立[現・大成有楽不動産(株)]
- 1955 (昭和 30)年 東京国際空港(羽田)ターミナルビル
- 1956 (昭和 31)年 成和機械(株)設立
[現・成和リニューアルワークス(株)]
- 1957 (昭和 32)年 株式を東京証券取引所に上場[建設業で初]
- 1958 (昭和 33)年 国立競技場(東京都)[第3回アジア競技大会の会場]
- 1960 (昭和 35)年 技術研究所を開設[現・技術センター]
- 1961 (昭和 36)年 大成道路(株)設立[現・大成ロテック(株)]
関西電力黒部川第四発電所第5工区
- 1962 (昭和 37)年 ホテルオークラ
ホテルインドネシア[戦後初の海外工事]
- 1963 (昭和 38)年 大成プレハブ(株)設立[現・大成ユーレック(株)]
- 1964 (昭和 39)年 ホテルニューオータニ本館[日本初の超高層ビル]
富士山頂レーダー基地/
東京カテドラル聖マリア大聖堂
- 1965 (昭和 40)年 大幸設備工事(株)設立[現・大成設備(株)]
- 1966 (昭和 41)年 国立京都国際會館
東名高速道路日本坂トンネル

の歩み

2013年、当社グループの中核である大成建設は創業140周年を迎えました。

1873(明治6)年、創業者、大倉喜八郎が大倉組商会を設立して以来、安全で快適な生活環境の整備を通じて社会の発展に貢献してきました。

これからもより良き未来価値の創造に向けてグループの総力を集めて取り組んでいきます。



1970～1989

新技術創出と国家プロジェクトへの挑戦

- 1970(昭和45)年 大阪万博・富士グループパビリオン
山陽新幹線吉井川橋梁
- 1971(昭和46)年 大成サービス(株)設立[現・大成有楽不動産(株)]
大倉山シャンツェ[改修]
- 1973(昭和48)年 創業100周年記念式典開催
- 1974(昭和49)年 ホテルニューオータニ・タワー／迎賓館[改築]
- 1976(昭和51)年 安田火災海上本社ビル
- 1978(昭和53)年 上越新幹線大清水トンネル
- 1979(昭和54)年 技術研究所が横浜に移転
新宿センタービル[本社を新宿に移転]
- 1982(昭和57)年 ザ・シンフォニーホール
- 1984(昭和59)年 東京電力東扇島地下タンク
- 1985(昭和60)年 南北備讃瀬戸大橋
UBNコンプレックス(マレーシア)
- 1986(昭和61)年 東京全日空ホテル／北京シャングリラホテル(中国)
- 1987(昭和62)年 青函トンネル[アジア最長]
ヒルトン・インターナショナル・コロムボ(スリランカ)
- 1988(昭和63)年 チラタ水力発電所(インドネシア)／
横浜ベイブリッジ
- 1989(平成元)年 関西国際空港造成

1990～2014

環境への配慮、社会の安全・安心への貢献

- 1990(平成2)年 新たな経営理念・行動指針とシンボルマークを制定
- 1991(平成3)年 東京都第一本庁舎
- 1993(平成5)年 横浜ランドマークタワー／センシティタワー
- 1997(平成9)年 大成建設ハウジング(株)設立／東京湾横断道路
- 1999(平成11)年 JRセントラルタワーズ／ハワイ・すばる天文台／
仙台MTビル[旧・仙台森ビル]
- 2000(平成12)年 さいたまスーパーアリーナ
- 2001(平成13)年 札幌ドーム
- 2002(平成14)年 プルデンシャルタワー
- 2003(平成15)年 国立劇場おきなわ
- 2005(平成17)年 中部国際空港
- 2006(平成18)年 OLINAS／大成札幌ビル
- 2007(平成19)年 忠別ダム／霞が関コモンゲート
- 2008(平成20)年 ジブチパレスケンピンスキーホテル／身延山久遠寺五重塔
- 2010(平成22)年 みなとみらいセンタービル／東京国際空港D滑走路
- 2012(平成24)年 大成有楽不動産(株)設立／JPタワー
- 2013(平成25)年 御茶ノ水ソラシティ／新バーハ国際空港ターミナルビル／
ボスボラス海峡横断鉄道トンネル
- 2014(平成26)年 大手町タワー

1873~1945

日本の近代化を支えた建設事業

創業者、大倉喜八郎の信念と情熱の下、数多くの先駆的な事業を成功させ、日本の近代国家建設に貢献しました。

創業者、大倉喜八郎

大倉喜八郎は幕末の越後国新発田(新潟)に生まれ、18歳で上京すると、建設請負、洋品店、貿易商など、時流を得た新商売を次々に手がけました。1873(明治6)年、日本人による初の貿易商社、大倉組商会を設立。直輸入貿易や建物の造営を担い、優秀な技術者を集めて、鹿鳴館、碓氷トンネル、函館ドックなどの大工事を次々と成功させました。さらに、電力、ガス、ビール、ホテル、学校などの各種事業を立ち上げ、日本の近代化に大きな功績を残しました。



銀座煉瓦街復興

●1873(明治6)年
大火で焼失した銀座を不燃の煉瓦街として再生させた復興事業。



琵琶湖疏水

●1890(明治23)年
琵琶湖の水を水運や発電などに利用すべく建設された、近代開発事業の先駆け。



東京地下鉄道(上野~浅草間)

●1927(昭和2)年
東洋初の地下鉄工事。道路交通を確保しながら地下を掘削する画期的工法が用いられた。



1946~1969

復興から新たな成長へ

戦後の混乱期を乗り越え、大成建設として新たな出発を果たした当社は、戦後の復興と、新生日本の発展を担ってきました。

大成建設の誕生

1946(昭和21)年、当社の前身である大倉土木は、財閥解体の指定を受け会社存続の危機に陥ります。それに先立ち、大倉土木から大成建設へと社名を変更し再出発を図っていましたが、1947(昭和22)年に、社員の投票によって社長と役員を選ぶ、前代未聞の社長・役員選挙を実施。さらに、社員が自社株を購入し、社員持株制度を実現しました。

国立競技場

●1958(昭和33)年
第3回アジア競技大会のために建設された本格的陸上競技場。改修後、東京オリンピック(1964年)のメインスタジアムとなった。



富士山頂レーダー基地

●1964(昭和39)年
厳しい気象条件の中で建設された標高日本一の施設。35年にわたって台風監視の砦として活躍した。



日本初の超高層ビル ホテルニューオータニ本館

●1964(昭和39)年

1964年の東京オリンピックの開催に合わせて建設された、日本初の1,000室クラスの国際ホテルです。超高層ビル(高さ60m以上)を実現するために、日本で初めて柔構造によるホテル建設に挑みました。ここで得られた技術は、新宿副都心の超高層ビル群にも次々と採用され、幅広く普及していきました。



1970～1989

新技術創出と国家プロジェクトへの挑戦

数々の国家的プロジェクトに参画するとともに、多様化する建設ニーズに応えるため、技術力・総合力向上への挑戦を重ねてきました。

新しい技術研究所が誕生

1979（昭和54）年、当社の研究開発の中核を担ってきた技術研究所（現・技術センター）が横浜市戸塚区に移転オープンしました。コンクリートなどの強度を測る大型構造物試験機をはじめ、最新鋭の実験設備が整備されたほか、研究室では、専門分野を超えて研究が広がることを目的に、間仕切りのないレイアウトとし、開かれた研究所を目指しました。



新宿センタービル

●1979（昭和54）年
これまでの超高層ビル建設で蓄積された技術を集大成して建設。2009年には、いち早く長周期地震動対策を実施した。



ザ・シンフォニーホール

●1982（昭和57）年
日本初のクラシックコンサート専用ホール。海外の名演奏家にも高く評価された音響技術は、その後の日本のホール設計に大きな影響を与えた。



東京電力東扇島地下タンク

●1984（昭和59）年
クリーンエネルギーとして注目されるLNG（液化天然ガス）の地下貯蔵設備。地下90mの側壁コンクリートを高精度に施工した。

本州と四国をつなぐ国家プロジェクト
南北備讃瀬戸大橋

●1985（昭和60）年

南北備讃瀬戸大橋の2つの吊り橋のメインケーブルを固定する高さ103mの巨大なアンカレイジ（コンクリート塊）を海中に構築しました。潮流が早く水深の深い厳しい条件の下、海底を10m掘削して基礎をつくり、29万m³ものコンクリートを打設して橋台を構築しました。海洋土木工事で数多くの実績を持つ当社の技術がいかに発揮された工事です。

日本の土木史上空前の大工事
青函トンネル

●1987（昭和62）年

開通時、世界最長の鉄道トンネル。工事期間24年。延べ1,400万人の作業員が携わった、日本の土木史上空前のスケールの大工事です。当社は、北海道側の吉岡工区を担当。土木の歴史を塗り替える新技術を次々と開発し、海底長大トンネル技術の高さが世界のトップレベルであることを証明しました。

チラタ水力発電所
（インドネシア）

●1988（昭和63）年

当時、インドネシア最大の国家プロジェクト。現在も、ジャワ島の一大電力供給源として活躍している。



環境への配慮、社会の安全・安心への貢献

環境問題への積極的な取り組みや、災害から社会と生活を守る
対策技術の提供を通じて、持続可能な社会の発展に貢献しています。

新しい経営理念とシンボルマークを導入

環境問題への関心が世界的に高まりつつあった1990(平成2)年、新しい経営理念「人がいきいきとする環境を創造する」を導入しました。シンボルマークのオレンジ、ブルー、グリーンはそれぞれ、明るい未来、優れた技術、豊かな自然を表し、自然環境と均衡を図りながら、力強く企業活動を続ける当社の姿をイメージしています。



東京都第一本庁舎

●1991(平成3)年
新都心にそびえる国際都市、東京のシンボル。高い耐震性を備え、当時最先端のインテリジェント機能が採用された。



横浜ランドマークタワー

●1993(平成5)年
当時日本一の高さを実現した超高層ビル。みなとみらい21地区発展の先導的役割を担った。



海洋ビッグプロジェクト 東京湾横断道路

●1997(平成9)年

川崎市と木更津市の間を海底トンネル・人工島・橋で結ぶ、延長15.1kmの東京湾横断道路。当社は、川崎側シールドトンネルと川崎人工島を担当しました。川崎人工島は、海底シールドトンネルの発進基地として、また開通後の換気施設として建設されたもの。水深約25mの海底下、しかも軟弱地盤を克服しての一大プロジェクトとなりました。ヨットの帆を連想させる換気塔は、9年に及んだ工事のモニュメントとなっています。



地域の魅力を高める、環境デザイン 札幌ドーム

●2001(平成13)年

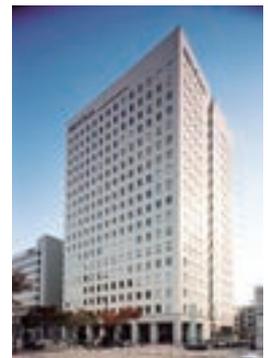
札幌近郊の広大な農業試験場の跡地に計画された札幌ドーム。その建設にあたり、周辺に広がる豊かな緑地との生物的連続性を確保するため、8,000本もの樹木の復元や、水辺環境の創出、さらに自然草地の育成を図りました。工事後の調査により、建設以前に比べてより多くの動植物が息づく場となったことが確認されました。



仙台MTビル [旧:仙台森ビル]

●1999(平成11)年

日本初の超高層免震ビル。2011年の東日本大震災でも、高い免震効果が確認された。



JRセントラルタワーズ

●1999(平成11)年

JR名古屋駅の総合ターミナル機能に加え、さまざまな都市機能を融合した「超高層立体都市」を構築。



未来価値の創造を目指して

社会の変化やそれに伴う課題に対応する技術革新を推進し、未来価値の創造を目指します。

持続的発展に向けた、長期経営計画 **TAISEI VISION 2020の策定**

●2010(平成22)年

2010年、当社グループの全役職員がグループとしての一体感を持ち、“明快で、分かりやすく、共有できる”理念体系を再構築しました。また、新たな理念体系の中に長期経営計画を位置づけ、10年後に“目指す未来”とその達成に向けた“道のり”を「TAISEI VISION 2020」として策定しました。現在、ビジョンの重点施策を反映させた、中期経営計画(2012-2014)を推進しています。

世界初のハイブリッド滑走路 **東京国際空港(羽田)D滑走路**

●2010(平成22)年

羽田空港D滑走路は、多摩川河口の流れを堰き止めないように、埋立て部分と栈橋部分を組み合わせたハイブリッド構造が採用されました。栈橋部分の床板には、高強度繊維補強コンクリートの一種であるダクトルを用いて、強度と耐久性を高めています。また、約20万m²にも及ぶダクトル床板の大量生産システムを世界に先駆けて確立しました。



革新的技術創出を目指して **技術センター施設拡充5カ年計画**

●2012(平成24)年

防災やエネルギー分野への関心が急速に高まる中、こうしたニーズに応える新技術開発を目指す体制強化を目的に、2012年から、技術センター施設拡充5カ年計画を進めています。2014年には、都市型オフィスのZEB(ゼロ・エネルギー・ビル)化を目指すZEB実証棟がオープン。このほかにも、機械化施工や遠隔操作技術を検証する建設ICT棟や津波実験施設などを新設し、革新的技術創出を推進していきます。



新ドーハ国際空港ターミナルビル (カタール国)

●2013(平成25)年

中東、カタール国に建設した世界最高水準のハブ空港。数多くの空港建設で培ったノウハウを結集してプロジェクトを成功させた。



ボスポラス海峡横断鉄道トンネル (トルコ)

●2013(平成25)年

トルコ150年の悲願と言われた巨大プロジェクト。世界初となる数々のトンネル技術に挑戦し、完成させた。



大手町タワー

●2014(平成26)年

都市を再生しながら自然を再生することを目指したプロジェクト。超高層ビルの足下に、自然の森の形に近い緑地を創出。



持続可能な社会に向けて

よりよい未来のために、 事業を通じて、新たな価値を創造していきます

大成建設グループは、高い付加価値を生み出す新たな事業構造を確立し、持続的に発展する企業グループとなることを目指しています。その過程を通じて、大成建設グループの技術・人材・ノウハウの活用により社会的課題の解決に向けて責任を果たし、持続可能な社会づくりに貢献していきます。

社会問題・ 環境問題への対応*

環境問題

(省エネルギー・省CO₂)



大規模災害への対応



社会インフラの整備



企業の成長への対応

TAISEI VISION 2020

高い付加価値を生み出す
新たな事業構造を確立し、
創業150年に向けて、持続的に
発展する企業を目指します

中期経営計画(2012-2014)

基本方針

1. 建設業の社会的責任の遂行
2. 高付加価値化に向けた
事業構造の確立

▶ 詳細は P31

グループ行動指針

「グループ理念」「大成スピリット」
を実現するため、役職員への
「グループ行動指針」の
浸透・定着活動を持続的に
実施しています

個別方針

- 安全衛生方針
- 品質方針
- 環境方針
- 調達方針 等

▶ 詳細は P32

TAISEI Green Target 2050

長期環境経営目標

▶ 詳細は DATA BOOK P8

大成建設グループの事業構成

Civil engineering

土木事業

トンネル・橋梁・道路・
ダム等の構造物の構築、
除染事業、リニューアル事業等

人々の暮らしや産業を支え、
環境と調和し、次世代まで
役立つ社会インフラを構築

Building construction

建築事業

空港・事務所・商業施設・工場・
病院施設等の構築、住宅事業、
解体・リニューアル事業等

安心・安全、低炭素・循環型
社会に対応する研究開発や
エンジニアリング技術を
活かして建物や施設を構築

Development

開発事業

PFI事業、再開発事業、土地活用、
プロパティマネジメント、
マンション分譲事業等

多様なスキームに関して
独自の手法とノウハウを駆使した
「都市の再生」計画を提案

その他の事業

技術・人材・ノウハウで新たな価値を創造

* 大成建設グループが認識している課題

ボスボラス海峡横断鉄道
トンネル窗体沈設

青木川橋梁

白子川地下調節池の
シールドマシン

ベトナム・ノイバイ空港

大手町タワーの
超高強度のCFT柱

テコレップシステムによる解体



大手町タワー



大手町の森

不動産のサービス
ソリューション**受託研究、技術提供、環境測定等**

あらゆるフェーズで最適なソリューションを提案

主な実績紹介近年の主な完成工事と
繰越工事をご紹介します。**土木事業 …………… P15-P18**

- 木村土木本部長メッセージ
- ボスボラス海峡横断鉄道トンネル 他

建築事業 …………… P19-P22

- 村田建築総本部長メッセージ
- ベトナム・ノイバイ国際空港 他

開発事業 …………… P23-P26

- 金井都市開発本部長メッセージ
- 大手町タワー 他

**大成建設の
技術とサービス****…………… P27-P28**

- 大成建設の都市型ZEB
(ゼロ・エネルギー・ビル) 他

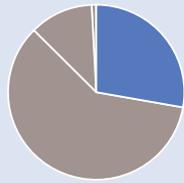
**グループ会社の
取り組み****…………… P29-P30****大成建設グループの
CSR****…………… P31-P32****CSRハイライト****…………… P33-P34**

- 2013年度の環境・社会・
ガバナンス(ESG)活動報告

セグメントの概況

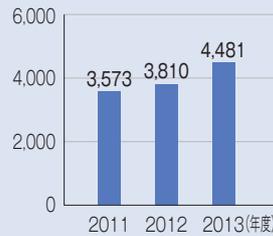
売上高比率

27.9%



売上高推移

(億円)

売上高 **4,481**億円 営業利益 **325**億円

トンネル・橋梁・道路・ダム等の構造物の構築、除染事業、リニューアル事業等

売上高は当社及び連結子会社ともに増加したことから、前期比17.6%増の4,481億円となりました。また、営業利益は、売上高の増加及び売上総利益率の改善により、同236.4%増の325億円となりました。

従業員(構成比) **3,743名(27.5%)**

※ セグメントの概況ではセグメント間の売上高等を含めた業績数値を記載しています。

戦略的技術の開発を進め 高い付加価値を提供します



代表取締役副社長執行役員
土木部長兼社長室副室長

木村 洋行

土木部門では、時代や事業環境の変化に応じて、様々なインフラ施設の建設に対応しています。多様なニーズにお応えするため、戦略的技術の開発に力を入れています。その事業基盤をさらに強固なものにするため、地下構造物構築技術やダム高速施工技術、橋梁架け替えなどの維持更新・更新技術、またiPadによる情報共有技術や、CIM^{*}への取り組みなどを強力に推進しています。

その成果として、2013年には、1台のシールドマシンで世界でも例のない長距離掘削を実現した首都高速中央環状品川線、設計施工一括発注方式で受注した新東名高速道路青木川橋などが竣工しました。豊富な施工実績と確かな技術に基づいて数々の課題を克服し、お客様から高い評価をいただきました。

海外への展開も積極的に推進しています。2013年に開通したボスボラス海峡横断鉄道トンネル工事では、異種トンネルの直接接合という世界初の試みを成功させました。先端技術を駆使して良質な施工プロセスと品質を提供し、難工事を取りまとめて完遂した総合力は高く評価され、日本産業技術大賞・内閣総理大臣賞、土木学会・技術賞など栄誉ある賞をいただきました。

また、こうした技術とノウハウを活用して、震災復興に最大限の貢献をしていきます。その一環として、環境省・自治体発注の除染工事、福島第一原子力発電所対応、UR東松島・気仙沼の防災集団移転工事など、多くの社会インフラ復興事業に継続参画しています。

これからも引き続き、設計力の強化と技術の伝承を図り、技術の深耕を加速していきます。

※ P28参照

主な実績紹介

首都圏を結ぶ圏央道のトンネルを掘削

首都圏中心部から半径40～60kmの位置に計画されているさがみ縦貫道路（圏央道）のうち、相模原市緑区葉山島から小倉を結ぶ道路トンネルです。NATM工法により、上り線、下り線それぞれ長さ約2.1km、内空面積約73m²を掘削しました。それに伴い、サグ部（下り坂から上り坂にさしかかる凹部）では、地盤改良工事を行いました。

さがみ縦貫葉山島トンネル

発注者：国土交通省関東地方整備局
設計：国土交通省関東地方整備局
竣工：2014年2月
所在地：神奈川県相模原市

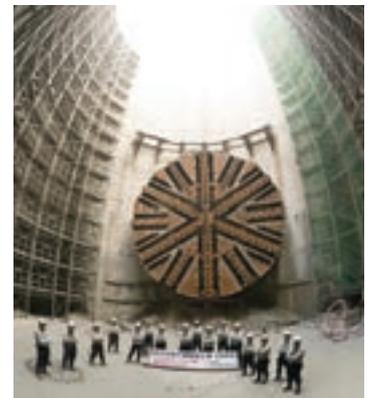


ゲリラ豪雨から都市を守る大規模地下調節池

近年の局地的な集中豪雨に対応し、増水の際、一時的に水を貯め込む調節池です。目白通りに沿って、内径10.0m、約3.2kmのシールドトンネルを掘削しました。増水時は白子川と石神井川の両方から取水でき、複数河川を1つの地下調節池につなぐという都内初の試みとなりました。貯留量は最大21.2万m³で、1時間あたり50mmの降雨への対応を目標としています。

白子川地下調節池工事（その5）

発注者：東京都建設局
（第四建設事務所）
設計：東京都建設局
竣工：2014年1月
所在地：東京都練馬区



設計・施工の一貫管理で合理化を実現

新東名高速道路の一部をなす長大橋です。発注者である中日本高速道路が初めて実施した設計施工一括発注方式による案件でした。与えられた条件から構造形式を決定し、波形鋼板ウェブ箱桁橋、高強度鉄筋を使用した中空橋脚を採用。環境に配慮した仮設栈橋の設置、超大型移動作業車による大ブロック施工など、先端技術を駆使して、品質を確保しながら工期短縮を図りました。

新東名高速道路 青木川橋

発注者：中日本高速道路（株）名古屋支社
設計：大成建設・オリエンタル白石共同事業体（設計施工）
関連コンサルタント：中央復権コンサル・日本工営・オリエンタルコンサル・横浜コンサル
竣工：2013年5月
所在地：愛知県岡崎市



シンガポールの鉄道網整備に貢献

全長40km、全33駅を備えるシンガポール最長の地下鉄「ダウンタウン線」の工事は、3期に分かれて建設中です。その内当社が施工した第1期の907工区は、ダウンタウン地下駅と西側・東側開削トンネルを含む施工一式請負工事で、2013年9月30日に竣工。営業開始した12月21日には、リー・シェンロン首相を主賓に迎え、開業式典が執り行われました。

シンガポールダウンタウン線建設工事907工区

発注者：シンガポール陸上交通庁
設計：AECOM Singapore Pte Ltd
竣工：2013年9月
所在地：シンガポール共和国マリーナベイ地区



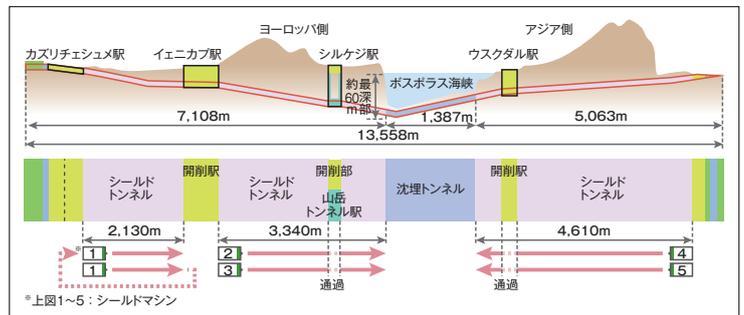
土木

「トルコ150年の夢」のパートナーとして

トルコ共和国の国家事業として、ボスポラス海峡を横断する鉄道トンネルを建設しました。オスマン帝国時代から構想されていた海底トンネルは、「トルコ150年の夢」と言われていました。アジアとヨーロッパをつなぐボスポラス海峡は、トルコの中心都市イスタンブールを二分するように位置し、古くから交通の妨げとなっていました。近年の経済発展により交通渋滞と大気汚染が深刻化するなか、日本政府が円借款を供与し、2004年8月、大量輸送ができる鉄道トンネルの建設工事に着手しました。本プロジェクトは、トルコの建設会社2社との共同企業体で進められ、全長約13.6kmにわたる巨大プロジェクトです。約1.4kmの海底トンネルは沈埋工法、陸上トンネルはシールド工法・NATM工法などを併用し、トンネル施工の最先端技術を駆使。厳しい自然環境下での難易度の高い施工、遺跡や歴史的建造物の保全に関するきめ細やかな対応が求められる難工事となりましたが、建国90周年にあたる2013年10月29日、地下鉄の開通を実現。エルドアン首相や安倍首相も出席した記念式典が開催されました。また、その功績と技術力が高く評価され、2014年4月、第43回日本産業界技術大賞「内閣総理大臣賞」を受賞しています。

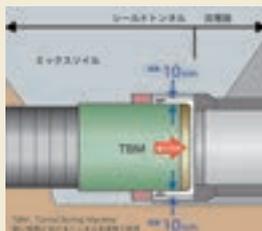
ボスポラス海峡横断鉄道トンネル

発注者：トルコ政府運輸通信省・鉄道・港湾・空港建設総局 (DLH)
 設計：大成建設・Gama・Nurol
 部分開業：2013年10月
 所在地：トルコ共和国イスタンブール市



技術の窓

海底トンネル部分は、コンクリート製の函体を海底に沈めて接合する沈埋工法を採用しました。ITの活用など、ボスポラス海峡の複雑で速い潮流に対応し、海面下60mという世界最大水深部での沈設を実現しています。さらに、海底トンネル（沈埋工法）と、陸上トンネル（シールド工法）を海中で直接接続。高い精度と安全性を求められる試みを、世界で初めて成功させました。一方、陸上トンネル部分は、シールドマシンで地下を掘削するシールド工法を、過密市街地にあるシルケジ駅はNATM工法を採用。歴史的建造物の多い土地柄、建物への影響に配慮して最適な工法を併用しました。



異種トンネルの直接接合（シールドトンネル、沈埋函接合部模式図）



世界初のRC沈埋函を洋上構築、函体を沈設する作業船



シルケジ駅周辺の市街地地下での建設は作業用地の制約からNATM工法を採用

OUR STORY >>> 総合力を結集して、開業までの全てをやり遂げました



このプロジェクトは、設計、調達、建設を一括して請け負う「EPC契約^{*}」の案件でした。地下鉄の線形の決定から、設備やシステムの構築、維持・操作マニュアル作成やトレーニング実施まで、まさに開業までのほぼ全ての業務を担ったのです。その上、複雑な潮流の海峡での水中作業や経年劣化した歴史的建造物下でのトンネル掘削など、細心の注意と大胆な発想が求められる現場でした。その中で、安全かつ着実にこれだけの大規模工事をやり遂げることができたのは、新しいことにも果敢に挑戦する風土と、設計、施工、ITなど総合的な技術力があったからこそ、日本のゼネコンの力を世界に証明したプロジェクトだと感じています。

専務執行役員 国際支店トルコ・ボスポラス海峡横断鉄道トンネル建設工事担当 **近江秀味**（現：国際支店顧問）

OUR STORY >>> 設計・施工一体となって大胆な提案を実現しました



EPC契約では、通常お客様から指示される要件を、自分たちで一から企画します。要求される機能を満たすための仕様をこちらで決めてご提案するのです。心掛けたのは、早くお客様の信頼を得ること。当初は、欧米では珍しいゼネコンの設計部門の実力を疑問視する空気も感じましたが、結果的に設計・施工を一括で担う強みを発揮できたと思います。今回は技術的なチャレンジも多かったので、設計段階から施工部門と綿密にやり取りを重ねました。仕様を決める段階から実現の方法を具体的に探り、思いを共有したことが、事業成功への助走になりました。実際にできあがっていくものを見て、お客様からの信頼が一気に高まったのはその証と言えるでしょう。

国際支店トルコ・ボスポラス海峡横断鉄道トンネル建設工事業所 作業所長（設計担当） **土屋正彦**（現：土木本部土木設計部設計計画室長）

OUR STORY >>> 適切な事前検討ができれば、結果はついてくるもの



ボスポラス海峡の潮流は、気象の影響を大きく受けるため、変化を予測しにくいのが特徴です。作業の安全のために、潮流予測システムの開発が必須でした。これはITを使って、現場の観測データを解析し、連続36時間の潮流を予測するもの。着工前、徹底的に文献の検証や技術センター内での実験を重ねましたが、やはり現地に行くまでは不安でした。でも観測データの蓄積とともに予測の精度も上がっていき、いけると確信しましたね。また、トルコスタッフのマネジメントやお客様との交渉を通じて、論理性や交渉力の重要性を痛感しました。一人ひとりがスキルを磨くことで、さらなる海外展開につながればと思っています。

国際支店トルコ・ボスポラス海峡横断鉄道トンネル建設工事業所 工事課長 **伊藤一教**（現：技術センター 土木技術研究所水域・環境研究室長）

OUR STORY >>> 技術者・管理者として大きく成長できました



函体製造から沈設作業までの沈埋トンネルの全工程に携わった後、設計部に移り、業務監理や関係機関との連絡・調整を担当しています。幅広い業務を経験し、プロジェクトマネジメント全般に関わる知識を得ることができました。上司の丁寧な指導に応えようと、どん欲に知識を吸収し、最大限貢献できるようにと頑張ってきました。沈埋トンネルの建設は初めての経験で、最初はうまくいくのか不安でしたが、その成功を目の当たりにしたことは大きな自信になりました。今後はさらなる技術の研鑽を積みながら、管理者として自分の知識と経験を仲間たちと共有し、今回のような素晴らしい成功を重ねていきたいと考えています。

国際支店トルコ・ボスポラス海峡横断鉄道トンネル建設工事業所 設計課長 **トルガ・ブラク**

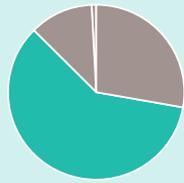
^{*} 建物や工場、発電所などの建設に関する契約方式の一つ。設計（engineering）、調達（procurement）、建設（construction）を含む、建設プロジェクトの建設工事請負契約を指す。

建築

セグメントの概況

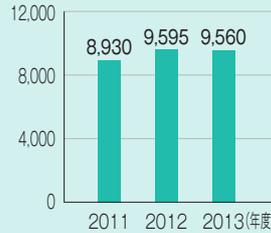
売上高比率

59.6%



売上高推移

(億円)



売上高 **9,560**億円 営業利益 Δ **89**億円

空港・事務所・商業施設・工場・病院施設等の構築、住宅事業、解体・リニューアル事業等

売上高は概ね前期並みの9,560億円となったものの、営業損益は売上総利益率の悪化により、89億円の損失(前期は192億円の利益)となりました。

従業員(構成比) **7,787名(57.3%)**

※ セグメントの概況ではセグメント間の売上高等を含めた業績数値を記載しています。

建築関連技術を結集した 総合力を発揮していきます



取締役常務執行役員
建築総本部長兼建築本部長兼社長室副室長
村田 誉之

建築部門では、お客様のニーズと用途に応じて、事務所や共同住宅をはじめ、宿泊、商業、医療・福祉、原子力、生産、交通、教育、スポーツ、劇場等の様々な施設の建設を手掛けています。

当社建築部門の強みは総合力です。設計、調達、環境、エンジニアリングなど各部門が連携し、先進的な技術と豊富なノウハウを有機的に組み合わせ、独創的なアイデアを、品質と機能性を兼ね備えた建築物として形にすることを重視しています。また、その実績を踏まえて、将来を見据えた有用な新技術の開発につなげています。

得意とする構工法技術では、超高強度コンクリート技術群「T-RC⁺」、超高層RCビルを実現する制振システム「TASMO」、都市型小変位免震を初めとする免制震技術等、当社独自の最先端の技術開発を進めるとともに、当社の千葉滑川PC工場でプレキャストコンクリートを製造し、高度に品質管理された製品を安定供給できる体制を構築しています。その上で、様々なプロジェクトに適用し、PC部材の特徴を活かした自由度の高い設計や短工期の施工を実現しています。海外事業においても、ベトナム・ノイバイ国際空港ターミナルビルに代表されるように、当社の総合力を発揮できる大型案件を中心に展開していきます。

震災復興、国土強靱化、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催など、建築需要が引き続き見込まれるなかで、社会的な課題とされる技術者不足の解消にも積極的に取り組んでいます。社員に対しては若手人材の早期育成や資格取得などのスキルアップを奨励しています。また、建設現場における合理的な業務フローを策定し、建設技能者の適切な賃金体系や社会保険の加入推進を図るなど、倉友会をはじめとしたパートナー企業(協力会社)とも協力して、現代にふさわしい生産体制の確立を加速していきます。

主な実績紹介

■ みなとみらいに新しいシンボルが誕生

「ライフエンターテインメントモール」をコンセプトとした、みなとみらい地区最大規模の商業施設です。鉄道5社の相互直通運転が始まった横浜高速鉄道「みなとみらい駅」と直結し、幅広い世代を対象としたレストランやショップのほか、屋上には果樹園・菜園を設置。新たなランドマークとして期待されています。

MARK IS みなとみらい

発注者：エムエムデベロップメント特定目的会社
 設計：(株)三菱地所設計
 竣工：2013年5月
 所在地：神奈川県横浜市西区



■ 人口増に対応した地域医療の中核拠点を建設

再開発に伴う人口急増に対応し、喫緊の課題となっていた豊洲地区の総合病院です。有事の際の災害拠点病院となり、耐震性や環境性能も確保しています。施工では、地域特性を活かして残土を海上搬出するなど、近隣に配慮した施工を行いました。「女性と子どもにやさしい病院」を掲げ2014年3月に開院しています。

昭和大学江東豊洲病院

発注者：(学)昭和大学
 設計：(株)佐藤総合計画
 竣工：2013年12月
 所在地：東京都江東区



■ 複合機能が集積した新しい街づくりに挑む

首都高速中央環状新宿線大橋ジャンクションと一体的に進められた再開発事業の一環として建設された超高層マンションです。地上部分は、超高強度コンクリートや制震構造の採用により、柱断面を抑えることでゆとりの空間を確保。大橋ジャンクション屋上の空中庭園と直結するなど、緑豊かな環境を創出しています。

CROSS AIR TOWER

発注者：東急不動産(株)、
 東京急行電鉄(株)、
 三井不動産レジデンシャル(株)、
 大成有楽不動産(株)
 設計：大成建設
 竣工：2013年1月
 所在地：東京都目黒区



■ 「新ワクチン研究生産棟」が完成

新型インフルエンザワクチン生産のための新ワクチン研究生産棟です。国内最多の実績を誇る当社医薬品エンジニアリング技術を駆使して高効率・高品質な生産設備を整備するとともに、地震対策として積層ゴム免震装置を導入。お客様の既存製品生産にも対応でき、多量生産施設として期待されています。

北里第一三共ワクチン(株) 新ワクチン研究生産棟

発注者：北里第一三共ワクチン(株)
 設計：大成建設、(株)日本設計
 竣工：2013年7月
 所在地：埼玉県北本市



■ 安全性・環境効率の高いITインフラを構築

急速に高まるITの利用に対応するため、三鷹に誕生した情報処理を行う施設＝データセンターです。本施設は、首都圏初の都市型直接外気冷房の導入に加え、様々な省エネ技術を採用。災害時に備え、非常用発電機の設置や、当社独自の免震構法により、高い信頼性と安全性を実現しました。

MCC三鷹ビル サウス棟

発注者：三菱商事(株)
 設計：大成建設
 竣工：2013年9月
 所在地：東京都三鷹市



■ 神宮式年遷宮の歴史と精神を伝える

伊勢神宮で20年に一度行われる「式年遷宮」の歴史や社殿造営等の技術を紹介する展示館です。2013年の第62回神宮式年遷宮を機に外宮境内に創設されました。印象的な大屋根は、せんぐう館のために製作された継ぎ目のない長さ11.5mの鋳鉄製。屋根の勾配も、内宮・外宮の社殿にならった矩勾配かねこうばいとしています。

式年遷宮記念せんぐう館

発注者：神宮式年造営庁
 設計：(株)栗生総合計画事務所
 竣工：2012年3月
 所在地：三重県伊勢市

第54回BCS賞受賞



■ 水産の町の復興のシンボルとして

宮城県女川町に建設された津波対策型冷凍冷蔵施設で、「カタルフレンド基金」の助成金による事業です。津波を受けた1階の外壁が外れ、津波の力を受け流す新構造システムを採用し、レベル1津波^{*}に耐えられます。避難や復旧も想定した機能的な美しいデザインを施し、復興の象徴として親しまれています。

女川魚市場買受人協同組合冷凍冷蔵施設(MASKAR)

発注者：女川魚市場買受人協同組合
 設計：大成建設
 竣工：2012年9月
 所在地：宮城県牡鹿郡

2013年度グッドデザイン賞特別賞受賞



※ 100年に1回程度の発生回数を想定したレベルの津波

■ 日本を代表する美術の拠点をリニューアル

前川國男氏の設計により1975年に竣工した東京都美術館の大規模改修工事です。既存のタイルと同じ色調のタイルを焼き上げるなど、従来の建物イメージを守りながら、レストランの新設やバリアフリー化により利便性と快適性を向上。空調や照明設備についても、美術館としての機能向上と省エネ化を両立しています。

東京都美術館(リニューアル工事)

発注者：東京都
 設計：東京都財務局建築保全部施設整備第一課・(株)前川建築設計事務所
 竣工：2012年1月
 所在地：東京都台東区

第23回BELCA賞ベストリフォーム部門表彰



主な実績紹介 Project with Stories

旅客増に対応し空の玄関口を整備

ベトナム最大規模のノイバイ国際空港第2旅客ターミナルビル新築工事を、同国最大手であるピナコネックス社と共同企業体で施工しています。現在、この空港は国内15都市、海外53都市へ36の航空会社が就航しており、年間旅客数は600万人を超えています。今後のさらなる利用増に備えるため1千万人対応の第2旅客ターミナルビルが計画されました。ベトナム国民の期待を一身に背負い、年末の竣工を目指しています。

ベトナム・ノイバイ国際空港第2旅客ターミナルビル新築工事

発注者：ベトナム空港公社

設計：(株)日本空港コンサルタンツ

竣工：2014年12月(予定)

所在地：ベトナム社会主義共和国ハノイ市



OUR STORY >>> 多国籍なスタッフと一丸となって取り組みたい



今回のプロジェクトは空港ターミナルビルに加えて、通常では別発注となる全ての設備システム工事が含まれており、専門的な知見が求められます。発注者はベトナム、コンサルタントは日本、専門工事業者も両国に加え、中国、オランダ、フランス、シンガポールなど多国籍にわたっているので、主要スタッフと早期の情報共有に努めるほか、適材適所の人材配置や、明快な指示とフォローアップを心掛けるなど、細かく気を配っています。お客様の要望による設計変更も少なくありませんが、契約を基本にしながらか、状況に応じて臨機応変に対応し、当社の空港建設の豊富な実績に基づくノウハウを活かして、工期通りの完成を目指しています。

国際支店ベトナム・ノイバイ国際空港第2旅客ターミナルビル新築工事業所 作業所長 **滝本能章**

OUR STORY >>> 空港の機能を左右する設備工事を手掛けています



空港設備が機能してこそ空港が運営できるわけですから、設備工事の責任は重大です。空港内は様々なシステムが複雑に連携しているので、連携のリスクをいかに低減するか

に気を配っています。今回は、あらかじめ仮設建屋内で実際と同じ通信環境を構築し、システム間の連携を検証。初の試みでしたが、現場での試運転の工程を大幅に短縮しています。

国際支店ベトナム・ノイバイ国際空港第2旅客ターミナルビル新築工事業所 作業所長 **加納雅宏**



燃料供給設備、空港情報システム、可動搭乗橋などの空港特殊設備を担当しています。円滑な空港運営のためには、各設備を有機的に連携させることが重要で、全体をデザインする

には経験がものを言います。空港機能の中核ともいえる工事は非常にやりがいがあります。さらに知見を広げ、会社としてのさらなるノウハウの集積に貢献したいと思っています。

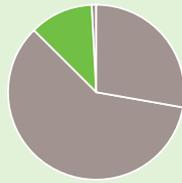
エンジニアリング本部エネルギー・インフラ・国際グループ シニアエンジニア **岩淵将**

開発

セグメントの概況

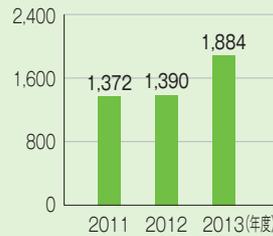
売上高比率

11.7%



売上高推移

(億円)



売上高 **1,884**億円 営業利益 **279**億円

**PFI 事業、再開発事業、土地活用、
プロパティマネジメント、マンション分譲事業等**

大型案件の売却に伴う配当が実施されたこと等により、売上高は前期比35.5%増の1,884億円となり、営業利益は同391.4%増の279億円となりました。

従業員(構成比) 1,925名(14.2%)

※ セグメントの概況ではセグメント間の売上高等を含めた業績数値を記載しています。

蓄積した開発ノウハウと、グループ力で 事業支援から都市再生までを担います



常務執行役員
都市開発本部長
金井 克行

開発部門では、事業の企画段階から、収益性の高い計画づくり、都市計画協議や開発許可取得の支援、権利者調整といった都市開発ノウハウの活用を通じて、お客様の事業をしっかりとサポートしています。分野は多岐にわたりますが、当社の最も得意とする再開発分野では、全国の市街地再開発事業の約20%に関与しており、PFI事業でもトップクラスの実績を残しています。また近年では、高度成長期に建設された建物の老朽化に伴う建て替え需要が高まっていますが、お客様には、容積率アップや規制緩和を勝ち取るなど、より効率的な施設整備を提案させて頂いています。また、ケースに応じて事業参画することもあります。

こうした開発ノウハウを活用した開発営業活動の他に、自ら事業主体となって開発事業を推進する取り組みも行っています。御茶ノ水ソラシティ、大手町タワーのようなオフィスビルから、子会社の大成有楽不動産(株)とコラボレートした大成ブランドマンション事業まで、幅広く開発事業を展開しています。自社事業に限りませんが、施工のみならず、竣工後の管理・運営まで、グループ全体でのサポート体制を作れることが、当社開発部門の大きな強みです。

今後、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、一段と都市やインフラの整備が進んでいくと思われませんが、防災性の向上といった都市の抱える課題にも応えながら、次につながるビジネスモデルを作り上げていきたいと考えています。

主な実績紹介

■ 専門家の知見を結集した芸術文化交流施設

豊橋市が実施したPFI方式により整備された芸術文化交流施設です。大成建設が代表企業となるコンソーシアム企業が、施設の設計・建設から15年間の維持管理を行います。豊橋の新しいシンボルとして、劇場建築の専門技術を結集し、線路に沿った外観にはレンガ壁によるアーチ型デザインを採用。LED照明の採用などで、CASBEEあいちSランクを取得しています。

穂の国とよはし芸術劇場 PLAT(プラット)

ジャンル：PFI

発注者：豊橋芸術文化事業サポート(株)

設計：香山壽夫建築研究所・大成建設共同企業体

竣工：2013年4月

所在地：愛知県豊橋市



■ 官民一体の再開発事業を多方面から支援

JR大津駅西側に建設された複合高層マンションです。大津市施行の土地区画整理事業との一体的施行にて進められた全国的にもめずらしい市街地再開発事業です。大成建設は、2008年より事業協力者・特定業務代行者として、組合運営資金の立て替え、事務局業務、工事施工等を行うとともに、参加組合員として住宅保留床の取得も行い、事業の実現を様々な面から支援しています。

COCOLAS(ココラス)大津

ジャンル：再開発

発注者：大津駅西地区市街地再開発組合

設計：(株)アール・アイ・エー

竣工：2013年11月

所在地：滋賀県大津市



■ 「ひとつ上の安心」という価値を提供

大成建設と大成有楽不動産が事業主となり、企画から設計・施工・管理まで全てを大成建設グループで担ったマンションです。ハイブリッドTASS構法による免震構造の採用、各階防災倉庫の設置、高さ約2.3mのサッシの実現など、安心・安全・快適な都心生活を叶えることを追求し、大成ブランドマンションのコンセプト『「ひとつ上の安心」という価値』を提供しました。

オーベル明石町レジデンス

ジャンル：マンション事業

発注者：大成建設・大成有楽不動産(株)

設計：大成建設

竣工：2014年3月

所在地：東京都中央区



■ 先端研究の複合施設を整備・運営

羽田空港に隣接する川崎市殿町地区(キングスカイフロント)の中核として、川崎市が実施したPPP方式により整備された研究施設です。産学公民の連携により、ライフイノベーション・グリーンイノベーションの実現を目指しています。大成建設は、事業者として設計・施工から、20年間にわたる施設運営管理まで一貫して担当し、先端研究拠点形成を推進しています。

川崎生命科学・環境研究センター(LiSE)

ジャンル：自社開発

発注者：大成建設

設計：大成建設

竣工：2012年12月

所在地：神奈川県川崎市川崎区



建築・開発

■ 本物の森に囲まれた国際ビジネス拠点の誕生

国際競争力の強化を目指して、大規模再開発が進行中の大手町に、新たに誕生したランドマークです。大成建設と東京建物が共同事業主となり、都市再生特別地区の手法を用いて、オフィス、ホテル、商業施設などからなる新たな国際交流拠点を一体的に開発しました。

従来、敷地内にあった2棟のビルを解体し、大手町地域で最も高い地上38階の超高層複合ビルを建設。みずほフィナンシャルグループなどのオフィスのほか、最上層階には世界的なラグジュアリーホテルを擁する「アマンリゾート」が進出予定です。地下の商業ゾーン「OOTEMORI (オーテモリ)」は、東京メトロ大手町駅の東西線・丸ノ内線連絡通路に直結しています。

最大の特徴は、敷地全体の約3分の1に相当する3,600m²の「大手町の森」と名付けられた緑地です。都市の再生による自然の再生をテーマに、地域の植生に合わせた混交林を創出し、ビジネス街に本物の森を再現しました。クールスポットの形成により、ヒートアイランド現象を緩和するとともに、皇居の緑地と連携した生態系ネットワークを形成しました。また、丸の内から大手町、神田へ続く歩行者空間を創出し、街のにぎわいを生み出しています。

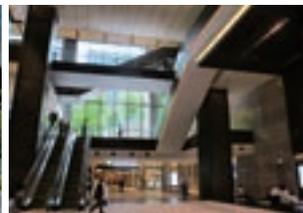
大手町タワー

発注者：みずほ信託銀行(株)

設計：大成建設

竣工：2014年4月

所在地：東京都千代田区

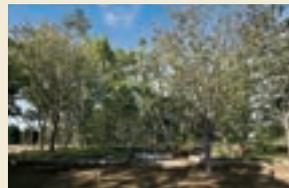


技術の窓

大手町タワーの開発は、ビルの解体から始まりました。建物全体を覆うことで、騒音・粉じんを低減でき安全にビルを解体する「テコレップシステム」を適用。開発に携わった技術者は内閣総理大臣賞他数々の賞を受賞しています。「大手町の森」の形成にあたっては、あらかじめ千葉県君津市に実際と同じ条件の「プレフォレスト」を整備。土の起伏や樹木の密度や種類などを計画通りに植樹し、約3年の検証を経て移植しました。また、地下2階から3層の吹き抜けとなっている大空間では、超高強度CFT柱(超高強度のコンクリート充填鋼管柱)を採用。歩行者の安全の確保と地下通路の快適空間を実現しています。



新解体工法「テコレップシステム」適用第一号



「プレフォレスト」(約1,300m²)で生育実験(千葉県君津市)



大空間の吹き抜けを支える超高強度のCFT柱

OUR STORY >>> 「ここでしかできないこと」に全員で挑んだ現場です



とても革新的な計画だったので、「ここでしかできないことを実現したい」と思っていました。しかしいくら準備をしても、施工現場は常に想定外の事態との戦い。特に今回は初の試みが多かったので、設計段階の事前検証や現場実験を重ね、あらゆるリスクに備えました。一方で、施工の安全と品質を支えるのは、一人ひとりの地道な積み重ねです。作業員は最大で約2,500人。全員が同じ方向に向かって着実に進めるよう、目指すゴールを明確に示し、密にコミュニケーションを取るよう心掛けました。新しいことに挑戦する今回の案件は、非常にやり甲斐のある現場でした。この経験が特に若手の成長につながればと期待しています。

施工 Construction 東京支店(仮称)大手町1-6計画工事作業所 工事長 **高瀬洋一** (現・東京支店建築部建築第6部 工事長)

OUR STORY >>> 他にはない思い切った計画をやり切りました



都市再生特別地区の制度は、計画内容の地域貢献度に応じて容積率の緩和などの特例が適用されるというもの。計画に当たっては、建物の機能・品質が最高水準であるのはもちろん、街に新しい価値を生み出すことが求められます。一律の基準ではなく、この場所ならではの貢献が評価されるため、歩行者ネットワークのあり方から森づくりの効果まで、ひとつひとつ協議しながら練り上げていく日々が続きました。その結果、当時東京都内で最高となる1,600%の容積率の指定を受けることができました。積み上げてきた都市開発のノウハウが、都市再生への貢献として高く評価される先進的な計画の実現につながったことを誇らしく思っています。

開発 Development 都市開発本部 開発事業部 課長代理 **佐藤俊輔** (現・都市開発本部プロジェクト開発第二部)

OUR STORY >>> コンセプトを形にする責任とやり甲斐を感じています



開発コンセプトを具現化するのが設計の使命です。象徴ともいえる「大手町の森」の発想は、「都市を再生しながら自然を再生」を実現するために生まれました。人と地域の関わりを多元的に分析するエコロジカルプランニングという当社技術を活用して、皇居に隣接する大手町に森を作り、再開発の進む東京の東側に向けて、緑のネットワークを実現できればと考えたのです。さらに、5路線が交わる地下鉄大手町駅から直結する吹き抜けを整備。森を斜面にして自然光を取り込み、地下とは思えない開放的な空間を確保しました。こうした自分のアイデアが、多くの方に喜んでもらえる場として実現できたことに、設計者として大きな喜びをかみしめています。

設計 Designing 本社設計本部建築グループ グループリーダー **田口晃** (現・本社設計本部建築設計第二部設計室長)

OUR STORY >>> 樹木から草本まで「自然の森」にこだわりました



「大手町の森」づくりで徹底してこだわったのは、自然の森の再生です。整然とした人工緑地ではなく、100年後も続くこの地に根付いた森を作る取り組みでした。そのために、地域特性や自然植生を科学的にひもといいて環境カルテを作成。専門家のアドバイスも踏まえて植樹する種を選定しています。樹木だけでなく地面を覆う草本まで再生しました。生まれだての森を順調に育てていくために、現在も継続してモニタリングを行っています。今後は生物多様性の保全やヒートアイランド現象の緩和とともに、リフレッシュ効果による知的生産性向上にも期待しています。都心の森が人々にさらなる安らぎを提供できれば嬉しいと思います。

環境 Environment 環境本部 環境計画・アセスメント室長 **埴田直子**

社会的課題の解決に向けた 革新的な技術開発と、顧客のニーズに応える 多様なソリューションをご紹介します

大成建設の都市型ZEB(ゼロ・エネルギー・ビル)

大成建設では世界でも例がない「都市型ZEB」の実現を目指しています。

この「都市型ZEB」は、従来の概念を覆し、ビルそのものが年間を通じたエネルギー収支をゼロにコントロールしながら、快適な室内環境を提供できる新しい概念の建物となっています。

「都市型ZEB」では「省エネから、ゼロエネへ。」の実現に向けて、3つの基本コンセプトを掲げて技術開発に取り組んでいます。

● いきいきオフィス

業務に集中できるスマートで快適なオフィス環境を創出

● ゼロエネルギー

省エネと創エネにより年間エネルギー収支ゼロを実現

● ひとつ上の安心

高い安全性と事業継続性を確保する
BCPへの対応を実施



技術センター ZEB 実証棟。BELS（建築物省エネルギー性能表示制度）の最高ランク5つ星を日本で初めて取得

「ZEB実証棟」導入技術

低照度タスク&アンビエント照明システム

- 採光システムと超高効率LED間接照明の連携で室内の明るさ感を確保
- 人検知センサーで人の在/不在を判断し高効率に下向きLED照明を制御
- やわらかい光の有機ELタスクライトで好みに合わせて机上面の光環境を調整

T-Light Cube

- 自然光を天井面へ照射し、眩しさ感を抑制しつつ、室内の明るさ感を向上
- 固定式構造で、年間を通じて様々な太陽高度の直射日光を採光可能
- 窓際だけではなく室内にまで光を到達させ、照明エネルギーを最小化

排熱利用タスク&アンビエント空調システム

- 燃料電池の低温排熱を有効活用し、吸着式冷凍機で冷水を製造
- 躯体放射空調による快適環境を提供、かつ搬送動力を低減
- 自分好みの風量選択と在席情報による外気量制御で快適&省エネ

T-Fresh Air

- 風・外気温・室温・人の位置などの計測データを用いた窓の開閉判断
- 屋外の風を取り込んで室内を快適な温熱環境に制御

有機薄膜太陽電池外壁ユニット

- 有機薄膜太陽電池の特長を活かして、壁面適用を実現
- 有機材料なので色の選択・変更が可能
 - ロールツーロール方式で形・寸法の自由度が向上
 - 軽量で施工性が向上し、建材一体化が可能

都市型小変位免震

- 高密度市街地で建築面積を最大限に確保した免震を実現
- 切替型オイルダンパーで免震クリアランスを30cm以内に
- 大地震時の安全性と中小地震時の安心感を確保

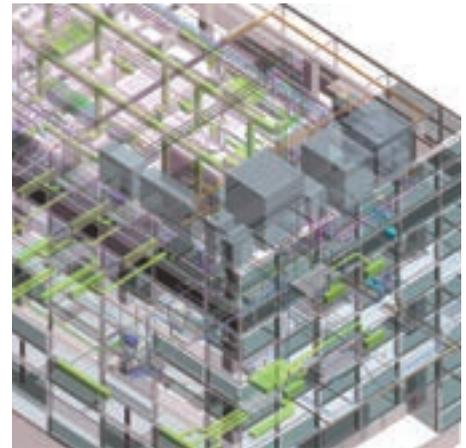
生産性の向上

BIM&VR/CIMによる建築・土木の設計ソリューション活用

より高度な品質向上のため、BIMとVR/CIMの活用に力を入れています。BIM (Building Information Modeling) は、コンピュータ内に構築された3次元仮想建築物モデルで、個々の部材に設計・施工・維持管理に必要な属性情報を記録し、活用する手法で、現在、設計案件の約7割で適用。バーチャルリアリティ (VR) 技術と連動させて、建物の内外観等を視覚的に表現でき、計画・設計・維持管理への活用等幅広い付加価値を生み出します。また、土木分野においても、ICT機器・システムと3次元データモデルを活用する画期的なツールとしてCIM (Construction Information Modeling) を導入し、土木事業での生産性を高めています。

建設機械を自動制御する次世代無人化施工システムを開発

作業内容を指示するだけで、予め装備した各種センサー情報から建設機械が自ら作業状況を判断し、人手を介さずに作業を完了させる自律制御システムを開発し、実機での検証を行っています。2012年度から3年計画で国土交通省の補助金事業により開発を進め実用化を図ります。



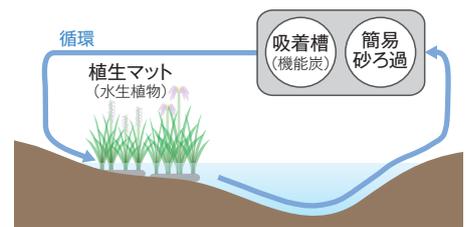
技術センター ZEB 棟のBIM

水質保全・省エネルギー対策

都市に水辺を「アクアトープの開発」

都市部に生きものが生息する池等の水辺を作るため、生物多様性に配慮しながら水質保全が図れるシステムを開発しました。自然由来の吸着材を効果的に用いることで、富栄養化による藻類の異常発生を抑制し、生態系保全と良好な景観の創出を可能にします。

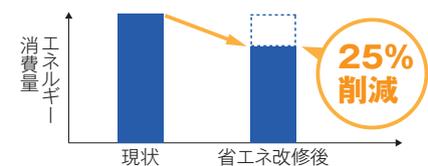
(日本植生(株)との共同開発)



アクアトープ概念図

建物の省エネ化に実績を誇る「省エネ診断ソリューション」

既存建築の省エネ化のため、専門知識を持つ当社エンジニアが省エネ診断を実施し現状課題を抽出します。診断結果をもとに、環境性、機能性、経済性に優れた省エネ改修をご提案します。



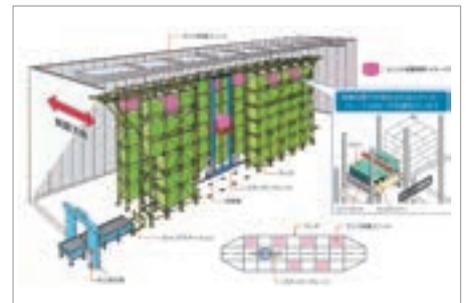
地震対策

震災後の自動倉庫の復旧を早める「ラック制震ユニット」

新築および稼働中の立体自動倉庫の地震対策として簡易に設置できる本装置を開発し、納入しています。ユニット設置により震度6弱の地震においても保管荷物の落下を抑え、長時間の稼働停止を防ぐことができます。

球体パノラマ画像システム「T-Siteview」と天井の耐震補強「T-Ceiling」

建物の天井内部にある設備機器や天井部材などの状況を短時間で計測し、立体視する球体パノラマ画像システムを開発し、天井内部の調査、記録に活用します。これまで静止画では理解しにくい天井内の現状や対策を、臨場感を持って確認できます。また、東日本大震災時の天井部材の脱落・落下事故を受け、天井の耐震補強での脱落防止対策として計画、施工に活用します。



ラック制震ユニット

グループ会社の取り組み

新たな価値を提供し、 社会の様々なニーズにお応えしていきます



大成ロテック株式会社

舗装技術で都市のヒートアイランドを防ぐ

舗装からアプローチしたヒートアイランド対策技術を開発しています。「クールウェイ（遮熱性舗装）」は表面の遮熱塗料が日射を反射し、「クールロード（保水性舗装）」は舗装内の水分蒸発時に熱を奪うことで、舗装の温度上昇を抑制し、夜間に舗装から大気中に放出される熱を削減します。2005年の国際博覧会で、クールロードは「愛・地球賞」を受賞しました。

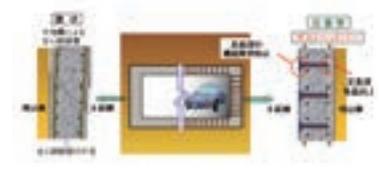


神田駿河台通りに導入されたクールウェイ技術

成和リニューアルワークス株式会社

PHb工法で既設インフラの再整備に貢献

トンネルなど地中構造物から、水門など地上構造物まで、幅広い用途のある「PHb工法」を開発・展開しています。これにより、従来補強困難とされていた既設の地下コンクリート構造物に有効な“せん断補強”を内空側から行うことが可能となりました。インフラの老朽化が社会問題となる中、その再整備に取り組み、安心・安全な社会基盤づくりに貢献しています。



優れた力学的性能により、既設地下構造物の耐震補強に威力を発揮

大成ユーレック株式会社

耐震+免震仕様の居住空間を提供

企業のBCP意識や、安心・安全な居住空間へのニーズが高まる中、創業以来の独自技術である耐震性の高いPC工法（壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造）に、大成建設のハイブリッドTASS構法（複合免震構法）を組み合わせることによって、免震機能を付加した「バルログXプレミアム」の販売を開始。ひとつ上の安心・安全を追求した集合住宅を提供しています。



PC工法とハイブリッドTASS構法の最適マッチングを実現した

大成設備株式会社

省エネを図る設備更新を提案

空調設備、給排水衛生設備、電気設備工事の3事業分野において、設備システムの省エネ化を図っています。国土交通省等の補助金を活用した初期コスト削減の提案を行うほか、高効率空調機やLED照明等の採用によって、ランニングコストを従来比15~20%削減しています。限りある資源の使用量削減やCO₂発生量の抑制によって環境負荷の削減を目指しています。



省エネルギー給湯器のエコキュートを介護施設「ヨゼフ園」でも導入

大成建設ハウジング株式会社

安全・安心・快適な戸建て住宅を提供

過去の様々な災害にも強く耐え抜いた、壁式鉄筋コンクリート構造の「バルコン」は、2014年に45周年を迎えました。大成建設のコンクリート技術のノウハウを活かし、独自に開発した戸建て住宅の事業を継承。変化が激しい日本の気候や、地震などの多くの災害から、人々を守る家を日本に普及させることを最大の使命として、災害に強い社会づくりに貢献しています。



2013年度グッドデザイン賞を受賞した「バルコンウォール」

大成有楽不動産株式会社

ハード・ソフト両面でマンションの防災を支援

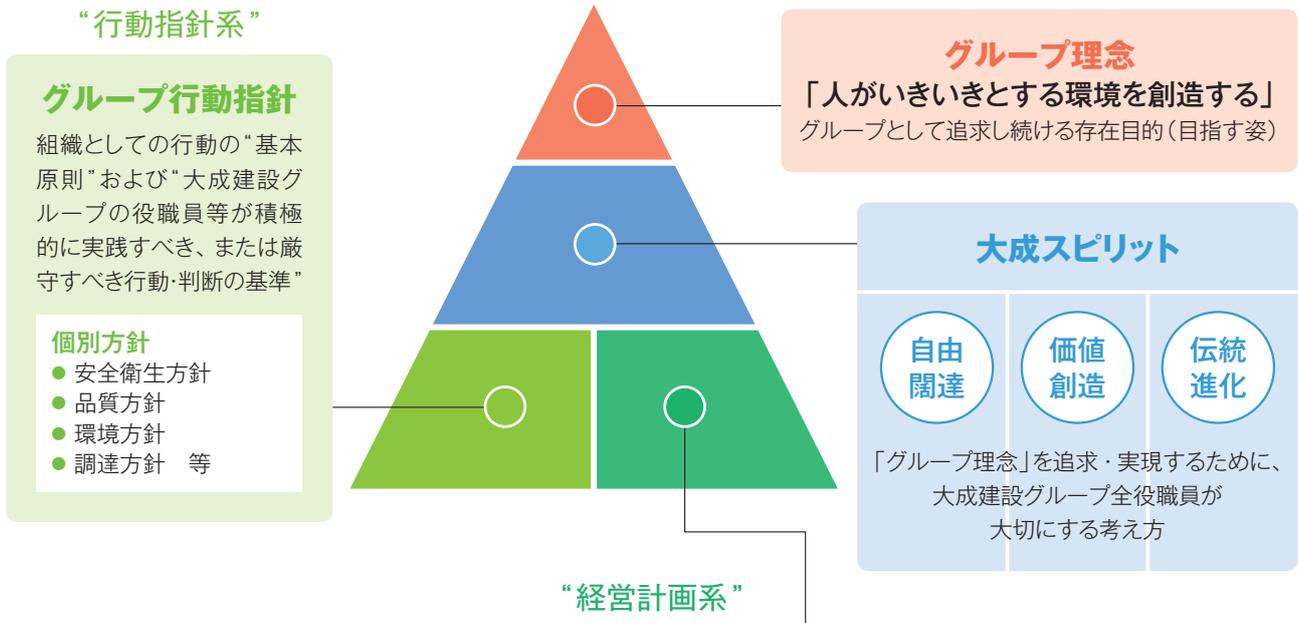
マンションライフにおける防災への取り組みを強化し、「そなエール『家族防災』／『みんな防災』」を展開しています。「売主・管理一体」体制という独自の強みを活かし、建物の構造や耐震性の配慮から、防災マニュアル配布やコミュニティ形成支援まで、ハード・ソフト両面で防災対策を幅広くサポート。安全で快適な暮らしを見守り、支えています。



2013年度グッドデザイン賞を受賞した「そなエール」

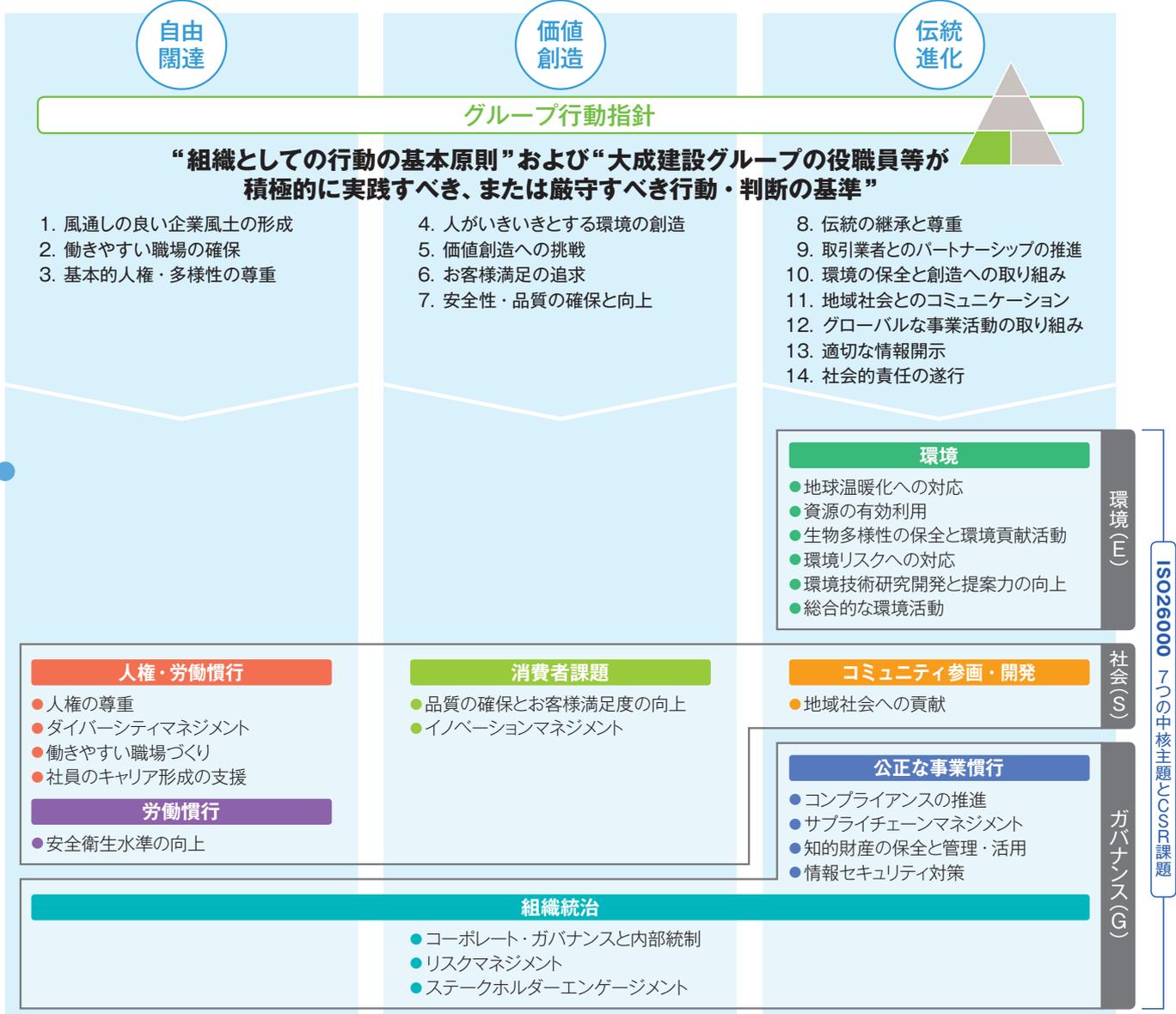
新たな価値創造に向け 持続的な発展を目指します

大成建設グループは、「グループ理念=人がいきいきとする環境を創造する」を目指すため、全役職員が「大成スピリット」を共有し、「行動指針系」(グループ行動指針)と、「経営計画系」(TAISEI VISION 2020・中期経営計画)を実施しながら事業を推進することで、「グループ理念」の実現を目指しています。



大成スピリット

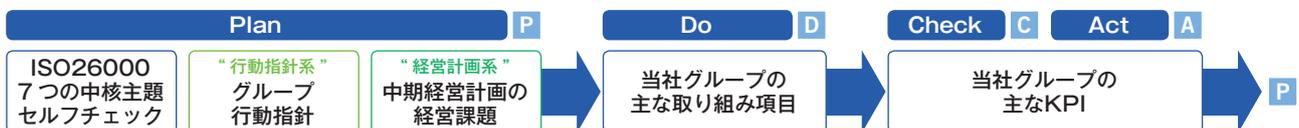
「グループ理念」を追求・実現するために、大成建設グループ全役職員が大切にしている考え方



※ ISO26000：企業を含むあらゆる組織を対象にした社会的責任に関する国際ガイダンス

※ 詳細はDATA BOOK P3-P6に掲載

“行動指針系”と“経営計画系”が一体となったCSRマネジメントを実施 (PDCA サイクル)



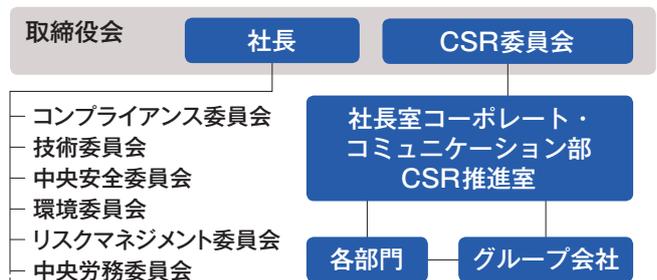
CSRの推進体制

大成建設グループでは、CSR活動を推進するため、CSR委員会を設置しています。

CSR委員会は、当社の取締役・執行役員5名で構成されています。

CSR推進室は、CSRに関する教育・指導および各部門・グループ会社との意見交換などを実施し、グループのCSR活動を推進しています。

CSR推進体制図



2013年度の 環境・社会・ガバナンス(ESG)活動報告

大成建設グループの環境 (Environment)・社会 (Society)・ガバナンス (Governance) 分野の CSR活動のハイライトをご紹介します。DATA BOOKをご参照ください。

Environment

環境

TAISEI Green Target

2013年度、大成建設グループは、中長期に向けた環境経営目標として、TAISEI Green Target 2020ならびにTAISEI Green Target 2050を策定しました。

社会資本の形成に携わる建設業は、環境への負荷の上に成立しています。一方、環境問題は地球規模でますます深刻化しており、世代を超えた対策が必要となっています。こうした状況を受け、大成建設は社会的責任のある企業として、中長期の目標を以下の通り掲げ、取り組んでいきます。



また、二酸化炭素排出量の削減に向けた大成建設の取り組みが評価されています。「CO₂ゼロアクション」と「エコモデルプロジェクト」への取り組みが、地球温暖化防止活動 環境大臣賞 対策活動実践・普及部門で表彰されました。「CDP (Carbon Disclosure Project^{*1}) 開示先進企業」に4年連続選定されました。

**「CDP 開示先進企業」に
4年連続選定**

Society

消費者課題

イノベーションマネジメント

大成建設グループは、社会や顧客のニーズへの的確な対応、技術を活用した新たな市場の開拓を目的に、研究開発費 (2013年度実績) 95億円を投じ、設計施工基盤技術や新材料・先端技術の分野に重点を置き、研究開発を推進するとともに、大学等の研究機関、異業種企業との社外アライアンスも積極的に行っています。

今後も、社会に役立つ新技術の開発と、作業所への技術支援を推進していきます。

**研究開発費95億円を投じ、
新技術を開発**

コミュニティ参画・開発

地域社会への貢献

日越政府による「日越建設会議」の下部組織として、両国ゼネコンおよび専門工事業者による「ベトナム建設人材育成協議会」(日本側会長:尾形国際支店長)が、2013年3月に発足しました。設立目的は、ベトナムの建設工事現場においてリーダークラスとなり得るベトナム人技能労働者を育成することです。大成建設は、東京支店伊東屋銀座本店建替計画作業所をモデル現場として提供し、ベトナム人実習生 (とび工2名、型枠工2名程度) を受け入れています。

**モデル現場を提供し、
ベトナム人実習生を受け入れ**

*1 機関投資家が連携し、企業に対して気候変動への戦略や具体的な温室効果ガスの排出量に関する公表を求めるプロジェクトのことです。

Governance

公正な事業慣行

サプライチェーンマネジメント

大成建設は、サプライチェーンマネジメントを建設業におけるCSR活動の重要な課題であると認識し、「調達方針」と「調達ガイドライン」を定め、CSR調達を推進しています。2013年度は、当社の協力会社組織である「倉友会」会員企業と、当社購買責任者に対し、説明会を実施しました（参加者949名）。また、「調達ガイドライン」に準じた内容のCSR活動のモニタリング（回収160社：KPI設定）を行い、CSR活動の実施状況について評価し、16社に指導しました。

取引先に「CSR調達」
モニタリングを実施

組織統治

ステークホルダーエンゲージメント

大成建設では、ステークホルダーの方々との対話や意見交換（ダイアログ）を行い、コミュニケーションを図ることで、私たちの事業活動を見つめなおすことを目的として、2002年よりダイアログを実施しています。

2013年度は、「アナリスト向け作業所見学会」、「フューチャーセッション」、「NGO CARE主催のシンポジウム」などを通じ、様々なダイアログを実施しました。

ステークホルダーの方々の声に耳を傾け、私たちの技術や、環境やCSRの取り組みが、未来にどう生かされていくべきか考え、ともに解決しようとする姿勢をもつことが、企業の社会的責任として重要であると考えています。

ステークホルダー・ダイアログを
継続的に実施

TOPIC ダイアログ事例

フューチャーセッション「レジリエンス※²の未来」

2014年3月14日（金）、東京都港区のкокヨホールで、ダイアログにより今後の地震対策の姿を創造する「レジリエンスの未来」フューチャーセッションを大成建設主催で実施しました。当日は、当社社員10名の他、一般公募により集まった防災関係会社、NPO、シンクタンク、教育関係者など、様々な業種のステークホルダー約100名が集いました。インスピレーションコメントーターの話聞きながら、今後必要となる地震対策の姿をテーマに、活発なダイアログが行われ、参加者より、19件のユニークな取り組み提案の発表がありました。地震への対策を、これまでの「防ぐ」という観点だけではなく、「ダメージを受けた後に、どう立ち上がっていくのか」という災害後のことを含めた「レジリエンス」の視点でとらえ、これからの地震対策と日本社会の方向性を考える機会となりました。



実施期間：2014年3月14日（金）13:00~17:00

会場：ココヨホール（東京都港区）

主催：大成建設（株）

協力：東洋経済新報社、あいおいニッセイ同和損害保険（株）、（株）インターリスク総研、（株）フューチャーセッションズ、ヤフー（株）、京都造形芸術大学 外苑キャンパスPlanetary Design講座（竹村真一教授）、（一社）企業間フューチャーセンター

連携コミュニティ：Future Meeting（日産自動車有志の会）、助けあいジャパン、IT×災害、Community Crossing Japan、iSPPP

インスピレーションコメントーター：名古屋工業大学大学院 工学研究科社会工学専攻教授（工学博士）渡辺研司氏

ファシリテーター：（株）フューチャーセッションズ代表取締役社長 野村恭彦氏

※2 「ハザードに曝されたシステム、コミュニティあるいは社会が、基本的な機構及び機能を保持・回復することなどを通じて、ハザードからの悪影響に対し、適切なタイミングで、効果的な方法で抵抗し、それを吸収・受容し、またそこから創造的に復興する能力。」といわれています。（出典：UNISDR Terminology on Disaster Risk Reduction（2009））



お問い合わせ先

大成建設株式会社
社長室コーポレート・コミュニケーション部CSR推進室
E-mail : t-csr@pub.taisei.co.jp
URL : <http://www.taisei.co.jp>



印刷には、植物性油を用いたインクを使用し、有害廃液を排出しない水なし印刷方式を採用しています。
本報告書ではFSC®認証紙を使用しています。